

＝県政レポート＝

良識を県政へ。

福岡県議会議員  
古川 忠事務所  
福岡市早良区原3-18-15  
TEL092-822-8555  
FAX092-822-8610



新年の御挨拶

新型コロナウイルスの感染が始まってから早くも三年が経ちました。次々に変異株の登場で未だ終息の兆しが見えませんが、しかしこれ以上経済の抑制を続けることは出来ず、福岡県も、コロナ対策と経済対策の両面作戦に舵を切りました。これからは、一人一人が、換気や衛生面に気を配りながら、少しでも早く日常を取り戻す工夫が必要です。

一方、世界に目を向ければ、ロシアのウクライナ侵攻から間もなく一年が経ちます。福岡県にも多くのウクライナからの避難の方々が暮らしています。ロシアの一方的な侵略や非人道的な行為に対しては強く非難を続けると共に、できる範囲での支援を続けたいと思っています。この戦争の影響で、ガソリンの高騰や物価高によって、県民生活、特に農漁業や中小零細企業の痛手が広がっています。県は、これらを支えるべく様々な支援策を打ち出しています。色々御相談があったら遠慮なくお声かけ下さい。一緒に頑張ってこの困難を乗り越えて行きましょう。

最後に私事ですが、皆様のお陰で七期にわたり議員として活動させて頂きましたが、年齢等々考え、後進に道を譲るべく引退を決意しました。皆様には長きにわたる御支援に心から深く感謝申し上げます。幸いに私の二男が志を継ぐ決意をされましたので早速『古川悠哉（ゆうや）後援会』を立ち上げました。お許し頂けるならば、皆様との絆の証しを、新後援会に譲りたいと思います。どうか御理解と変わらぬ御支援を伏してお願い申し上げます。

早良区 LOVE

夢 Ambitious 挑戦 Attack 創造 Originate a.a.o!



「志を継いで、より良い社会づくりに全力で取り組み覚悟です」

二男 悠哉

「若い力に託します」

忠



『田園の美しい国はどこか品格がある』

▽▽▽ コラム ▲▲▲

ベストセラーにもなった「国家の品格」を著した数学者、藤原正彦さんが一九八七年八月、文部省の長期在外研究員として初めてイギリスに降り立った時、機上から緑豊かな田園風景を目にして感動と共に発した感想である。

当時、日本は経済繁栄の真只中。国民総生産、国民所得とも世界最高水準を誇っていた。それに反し、イギリスは経済不振や犯罪の多発など「斜陽老大国」として英国病とまで揶揄されていた。にもかかわらず、実際に見たイギリスの大地は日本と比較にならぬ程端正で落ち着きを備えていた。「美しい自然を維持するには、国民にそれだけの精神的、経済的豊かさがないければならない。私は素頓狂に『イギリスは豊かだ。日本より豊かだ』と叫んだ。」と彼の著書「遥かなるケンブリッジ」で述べている。

あれから三十年余。我が日本は国民所得は全く伸びず、気が付いたら隣の韓国をも下回った。所得格差は広がり、子供が家庭で満足に食事も与えられずに、我が福岡県でも「子供食堂」があちこちに生まれるという悲惨な有様だ。

思えば、三十年程前からいわゆる経済の新自由主義が強化された。市場原理を基本とし競争によって経済成長を目指すという経済論理、合理主義の一つ。強者、例えば大企業がひたすら利益を上げれば、その果実がトリクルダウンで国民全体が潤うというもの。明治以来の日本の成長の一翼を担った面もあるが、今、年金生活者が四分の一を超え、成熟した日本社会に於て、この政策を放置していいものか。

一言で言えば「お金を儲ければ幸せなのか」と言うものである。明治初期に来日した外国人は「日本人はみな貧しい。だけど皆幸せそうだ」と異口同音に述べている。国民一人一人がより豊かになることは政治の最大の目標であるし、否定はしない。しかし、明治以来富を追求する余り、日本人特有の自然への畏敬、弱者への涙を失わせてしまった。あろうことか、弱者をイジメ、排除する風潮すら生まれている。

◇ 先のエリザベス女王の葬儀の際の整然とした葬列、女王に対する心からの尊崇の念。自国に対する誇り。奥深いイギリスの文化を改めて感じた人は多いのではないか。  
◇ 美しい自然、又同朋を守るのは我々の使命である。今こそ品格ある国家を取り戻そうではないか。

忠